

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2010	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
12		ラヴズ・ボディ 生と性を巡る表現 10月2日(土)~12月5日(日)	第11回上野彦馬賞 12月4日(土)~12月12日(日)	オペラ映画フェスティバル2010 「ブラインド・ドミンゴ in Films」 12月4日(土)~12月26日(日)
2011				
1	平成22年度東京都写真美術館 収蔵展[かがやきの瞬間] スナップショットの魅力 12月11日(土)~2月6日(日)	日本の新進作家展vol.9 [かがやきの瞬間] ニュー・スナップショット 12月11日(土)~2月6日(日)	映像をめぐる冒険vol.3 3Dヴィジョンズ -新たな表現を求めて- 12月21日(火)~2月13日(日)	「その街のこども 劇場版」 1月15日(土)~2月13日(日)
2	第3回恵比寿映像祭 2月18日(金)~2月27日(日)			
3			APAアワード2011展 3月5日(土)~3月20日(日)	
4	芸術写真の精華 日本のピカリアスM 珠玉の名品展(仮称) 3月8日(火)~5月8日(日)	夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編 3月8日(火)~5月8日(日)	ベッティーナ・ランス展 3月26日(土)~5月15日(日)	
5			JPS展 5月21日(土)~6月5日(日)	
6	コレクション展「子どもの情景」(仮称) 5月14日(土)~7月10日(日)	ヨセフ・クーデルカ(ブラハ) 1968年8月 ©Josef Koudelka/ Magnum Photos ヨセフ・クーデルカ ブラハ1968(仮称) 5月14日(土)~7月18日(月・祝)	世界報道写真展 6月11日(土)~8月7日(日)	
7	コレクション展「子どもの情景」(仮称) 7月16日(土)~9月19日(月・祝)	江成常夫展(仮称) 7月23日(土)~9月25日(日)		

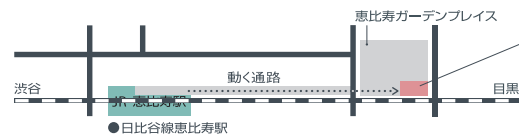
※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

## ご利用案内

- 2011年1月2日(日)・3日(月)は年始特別開館**
- 休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日)、2010年12月27日~2011年1月1日、1月4日、2月14日~2月17日、2月28日~3月4日(4階図書室は12月27日~1月4日まで休室)
  - 開館時間:10:00~18:00(木・金は20:00まで) **ただし1月2日・3日は11:00~18:00** 入館は閉館の30分前まで

## 割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



## 東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099  
<http://www.syabi.com>

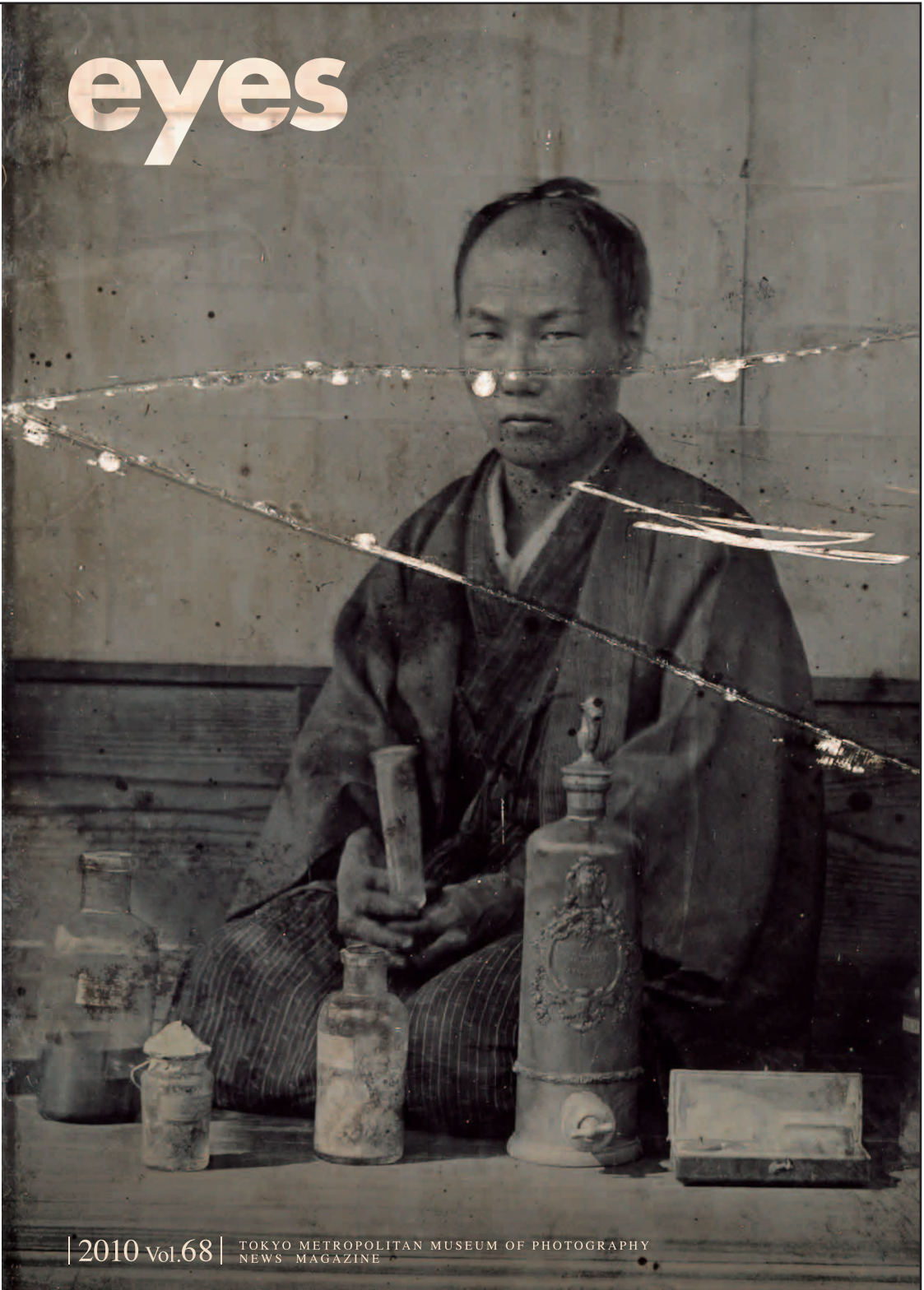
携帯サイトはこちら



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ10」68号 ●発行日:2010年12月3日 / 企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係  
●印刷・製本:JT印刷株式会社 ●発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2010-2011 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。





フェリーチェ・ベアト 題不詳(グラバー庭園のグラバーたち)(部分) 1864(元治元)年頃 長崎大学附属図書館蔵 大砲やライフルで鍛われたグラバー庭園



撮影者不詳 題不詳(熊本鎮台沖繩分遣隊)(部分) 明治時代中期 沖縄県立博物館・美術館蔵 熊本の駐屯所として使用された頃の首里城

1866, 1867, 1869-1870)に撮影および収集した大小4冊のアルバムです。フェリーチェ・ベアトによる長崎のパノラマやグラバー邸、袴袴の侍に変装したボードインらのポートレイトや、チャールズ・ワーグマンの描いた漫画をベアトが撮影した写真もあります。オリジナルアルバムの展示のほか、すべてのページをプロジェクションによって紹介します。

# 夜明けまえ

Topics

知られざる日本写真開拓史  
四国・九州・沖縄編

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治中期の写真・資料を調査し、体系化する初めての試み「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」の第3回として「四国・九州・沖縄編」を開催します。幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。「夜明けまえ」つまり芸術作品に用いられる以前の写真は、どのようなものだったのでしょうか。四国・九州・沖縄での調査をもとに、展示会は「であい」「まなび」「ひろがり」の三章で構成されます。

## であい

写真術は、1839年8月19日にフランスで発表されました。光り輝く銀の板に画像を焼き付ける、ダゲレオタイプという方式です。写実的な絵画の歴史を持ち、カメラ・オブスクラを発明した西欧社会では、19世紀初頭から写真を発明しようと様々な努力がなされます。対して、日本の絵画は色面と主線大切に浮世絵に代表されるように、平面の構造を重視して再現する方法が長い歴史の中で築かれてきました。このような日本人にとって、見えるものをそのまま画面に定着する「写真」は想像を超える文明でした。では、西洋で発明された写真は、どのようにして日本と出会ったのでしょうか。それは日本の開国が鍵になります。プロフェッショナル・フォトグラファーの来日、日本初の写真館誕生もこの時期です。また、勝海舟をはじめとする咸臨丸の一行が随行した遣米使節を筆頭に、幕府の使節団が渡米・渡欧して多く

の写真に写るのも開国に関わってのことでした。本章では、東京初公開となる長崎大学図書館所蔵のボードイン・コレクションを中心に紹介します。これは長崎養生所(長崎大学医学部の前身)の第2代教頭であるオランダ人、アントニウス・ボードイン(1820-1885)が、弟アルベルト・ボードインと協力し、在日期間中(1862-



左上)上野彦馬撮影局台紙 明治20～22年頃 右)上野彦馬撮影局台紙 明治31～34年頃 左下)上野照相(撮影)香港支店台紙 明治23年頃 すべて長崎歴史文化博物館蔵

## まなび

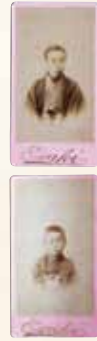
日本は、1854(嘉永7)年の日米和親条約の締結を皮切りに、西欧諸国と次々に条約を締結し国交を広げていきます。1859(安政6)年には、横浜、神戸、函館などの港に外国人居留地を設け、世界へ門戸を開きました。これを機に、写真技術は日本の開港地へもたらされ、普及していきました。開港以前には島津家を筆頭に、洋学研究の一環として実験が進められており、日本人による現存する最古の写真は1857(安政4)年に撮影された《島津斉彬像》です。1861(文久元)年には鶴飼玉川(1807-1887)が、日本人初の営業写真館を江戸・薬研堀で開設します。長崎の上野彦馬は堀江鉄次郎と写真の研究を進め、開国直後に日本を訪れたジョセフ・ビエール・ロシエ(1829-1872)によって技術を完成させた写真開祖といわれる人物です。このように大名による洋学研究とプロフェッショナルを目指した初期写真師

ネグレッティ&ザンブラ社製ガルバ焼入器(マグネシウムを使った照明器具)とこれに取り付けられたネグレッティ&ザンブラ社のプレート 明治初年 武雄市図書館・歴史資料館





左) 撮影者不詳 題不詳(役者写真) 明治時代中期  
高知県立歴史民俗資料館蔵  
右) 撮影者不詳 沖縄美人 明治時代中期 那覇市歴史博物館蔵



左) 江崎写真館 題不詳(男性像) 左下) 江崎写真館 題不詳(少年像)  
右) 江崎写真館 納品袋 すべて明治時代中期 玉名市立歴史博物館蔵



たちの双方によって、写真技術は習得されるのです。本章では、東京初公開となる上野彦馬の写真作品を数多く出品し、その台紙裏デザインの変遷もご覧いただける立体展示を行います。

また、内田九一による景観写真も見所です。当館が収蔵する『西国巡幸アルバム』のほか、長崎・大阪・京都・東京を含む四つ切サイズの名所アルバム、名刺判サイズの名所写真を展示します。近代化する日本の姿に和装の人物を配した九一独特の構図からは、幕末に生きた初期写真師の苦悩と気概が伺えます。写真の技術は、幕末期に新しさと商業的成功を求めて第一世代の写真師たちに体得されました。彼らの努力が次世代のあこがれを生み、日本中へ拡がっていく核となったのです。

### ひろがり

幕末期の日本人が求めた多くの写真は肖像だったといっていていいでしょう。これによって、明治初年以降になると「写真＝肖像を簡単に作るができるもの」という認識が



右) 井上俊三 題不詳(こうもり傘を持つ女性像)  
左) 蓋裏に押された井上俊三のスタンプ 明治初年 高知県立歴史民俗資料館  
坂本龍馬の撮影をめぐる議論で名高い井上俊三によるポートレート

拡がっていきます。また、鉱山や官製工場の記録、これまで浮世絵が担っていた役者の肖像や名所絵にも写真が使われるようになります。

第二世代以降の写真師たちは、日本人の師匠を持ち、日本人の書いた文献から知識を得ることが可能になっていきます。写真術を習得するための門戸が広がったため同業者が増大し、それぞれが生き残りをかけてしのぎを削る競争時代へと突入しました。

本章では、第二世代以降の写真師に焦点を当て、写真の普及と伝播を展覧します。多種多様な肖像写真を中心に立体展示を行い、台紙に描かれた意匠からその足跡を追います。また、現存の少ない納品袋(写真を納める時に使われた写真師の名前入りの袋)や、沖縄で見出されたキャビネサイズの鶏卵紙写真、浮世絵に替わり登場する役者写真、公的記録として官製工場を写したアルバムなど、さまざまな角度から明治時代に花開いた日本の写真文化に迫ります。

明治初期から中期へと向かう日本の写真は、個人的なものから社会的なものへと拡がっていきます。写真制作技術の普及によって、「写真はどのように使われるものなのか」、すなわち「日本人の写真観」が、この時期に形成されたと考えてよいでしょう。

フィルムからデジタルへの移行によって写真が「手にできるカタチ」を持たなくなった現在、本展は初期写真を通して、モノとしての写真を改めて問い直します。初期写真の歴史的な重要性だけでなく、日本人が大切にしてきた、そして、忘れ去られようとしている「写真の存在感」を目の当たりにできる貴重な機会です。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

3月8日(木) → 5月8日(日)

## 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史

四国・九州・沖縄編

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
- 協力：日本大学芸術学部
- 協賛：ライオン／清水建設／大日本印刷

当館では、日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」の第3回として、「四国・九州・沖縄編」を開催します。幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。その技術が芸術作品に用いられる以前、つまり、写真芸術の「夜明けまえ」ともいべき写真は、いったいどのようなものだったのでしょうか。そして、それらに宿る作品性とはどのようなものなのでしょうか。

江戸時代の写真は、西洋技術の象徴でした。日本最古の



上野彦馬 題不詳(上野彦馬と侍達) 明治初年

写真は、ペリー艦隊の従軍写真師が撮影したものです。やがて横浜や長崎が開港し、訪日する外国人写真師との関わりから、江戸の鶯飼玉川や開港地の上野彦馬・下岡蓮杖など、日本人の写真師が各地に現れます。そして、内戦を経て西洋的近代化へ向かう日本に、写真技術は広く普及・伝承されていきました。

「関東編」「中部・近畿・中国地方編」に引き続き、シリーズ第3回となるこの「四国・九州・沖縄編」では、四国・九州・沖縄の美術館・博物館・資料館など、公開機関を持つ約2,200の施設へ収蔵調査を行い、所蔵が明らかになった多くの未公開を含む貴重なオリジナル写真作品・資料と、東京都写真美術館コレクションおよび本展の協力機関である日本大学芸術学部のコレクションをご紹介します。

これらの未公開作品は、幕末～明治時代中期という写真史の新たなページをひも解くと同時に、そこに描写された19世紀の日本および日本人の姿は、絵画とは異なる写真ならではの直接的な現実感をもって目の前で躍動します。

本展は貴重な写真に触れる希少な機会となるとともに、表現という概念が存在しなかった時代の写真にも作品性が宿っていることを体感できる場となるでしょう。

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。  
4月29日(金・祝)～5月5日(木・祝)はゴールデンウィーク特別フロアレクチャーを予定しています。

※展覧会関連イベントを予定しています。  
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

12月11日(土) → 2月6日(日)  
1月2日・3日は年始特別開館日本の新進作家展 vol.9 [かがやきの瞬間]  
ニュー・スナップショット

THE NEW SNAPSHOT Contemporary Japanese Photography, vol. 9 Radiant Moments

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※1月2日は無料、1月3日は団体料金

- 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞 □ 助成：財団法人地域創造  
 □ 後援：イスラエル大使館／イタリア文化会館／シブヤ大学 □ 協賛：東京都写真美術館支援会員  
 □ 協力：エプソン販売株式会社／キヤノン株式会社／株式会社コスモインターナショナル／有限会社東京カラー工芸社／株式会社フレームマン

当館は写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場となるよう、さまざまな事業を行っています。その中核となるのが、新進作家に焦点をあてた展覧会です。

9回目となる本展は、「スナップショット」がテーマです。20世紀前半、スナップショットはカメラの小型化にともないアマチュア・カメラマンの間に広く普及し、今日ではアンリ・カルティエ＝ブレッソンをはじめ多くの写真家たちによっても実践



## 出品作家

池田 宏彦、小畑 雄嗣、白井 里実、中村 ハルコ、山城 知佳子、結城 臣雄

## 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00～

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

され、最も身近でポピュラーな写真のスタイルとなりました。現代の若い世代にも、日常の様々な光景を写し取る手段として脈々と受け継がれており、デジタルカメラやカメラ付き携帯などの普及に伴い、誰もが写真を撮り、それを発表する場が飛躍的に増えています。

本展では、先人たちによってかたちづくられたスナップショットの伝統をふまえ、進化を遂げている「ニュー・スナップショット」という視点から、6人の現代作家を紹介します。そこには、写真が持つ限りない可能性と奥行きを深さを発見するとともに、スナップショットが持つ特性によって、理屈の世界から開放された、調和や生きる喜びを喚起する様々な要素や、その対極にある要素にも目を向けさせます。

6人の新進作家たちがとらえた「かがやきの瞬間」から未来の写真表現を探ろうとする試みです。

中村ハルコ「光の音」より 1993-1998年  
 © Estate of Nakamura Haruko Courtesy Tomio Koyama Gallery, Tokyo / Formarle la Luce, Tokyo

## 新春特別フロアレクチャー 2011年1月2日(日)、3日(月) 16:00～

出品作家：池田宏彦氏、小畑雄嗣氏、結城臣雄氏  
 (両日もしくはどちらかに登場します)  
 (1/2はどなたでも参加可。1/3は当日の観覧チケットをお持ちの方は参加可)

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

12月11日(土) → 2月6日(日)  
1月2日・3日は年始特別開館平成22年度東京都写真美術館収蔵展 [かがやきの瞬間]  
スナップショットの魅力

SNAPSHOTS CAST THEIR SPELL Radiant Moments

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料  
※1月2日は無料、1月3日は団体料金

- 主催：東京都 東京都写真美術館／東京新聞  
 □ 後援：アメリカ大使館／フランス大使館／シブヤ大学

人間の深部や微妙な感情、場の空気さえも瞬間に取り込むスナップショットは、他にはない写真ならではのスタイルであり、その魅力に気づいた多くの表現者たちは、生活の様々な側面をこのスナップショットによって切り取ってきました。

1888年にコダックが鮮烈なキャッチフレーズとともに小型カメラを発売してから、スナップショットはアマチュアを中心に広く普及していきました。そして1925年、ライカが小型で持ち運びのできるカメラを発表するとプロの写真家たちにも使われはじめ、スナップショットは写真を代表する撮影スタイルとなります。

本展は、ウォーカー・エヴァンズやアンリ・カルティエ＝ブレッソンなど写真史に刻まれる20世紀を代表する写真家から、現代の国内外の写真家まで約150作品を展示し、未来に向け進化するスナップショットのエレメント(要素)とは何かを考えるものです。ファッション写真におけるスナップショットの先駆者、マーティン・ムンカッチの作品をはじめ、ストリートで捉えたお洒落な人々を、自身のブログにアップして爆発的人气を得たことから、現在では、『ヴォーグ』誌などのファッション雑誌でも

活躍する「ザ・サートリアリスト」(スコット・シューマン)、暗殺されたロバート・F.ケネディの遺体を運ぶ電車の窓から追悼するアメリカ国民の姿を捉えたポール・フスコの「ロバート・F.ケネディの葬式列車」など本展が日本初出展となる貴重な作品の数々をご紹介します。



ブルース・デヴィッドソン「ブルックリン・ギャング」より 1959年  
 © Magnum Photos

## 出品予定作家

マーティン・ムンカッチ、リチャード・アヴェドン、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ザ・サートリアリスト(スコット・シューマン)、ジャック・アンリ・ラルティエグ、近藤福雄、白井薫、荒木経惟、木村伊兵衛、桑原甲子雄、大久保好六、ウォーカー・エヴァンズ、ブルース・デヴィッドソン、ゲイリー・ウィノグラッド、深瀬昌久、ポール・フスコ、森山大道、土田ヒロミ、鷹野隆大 ほか

## 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00～

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

## 展覧会関連イベントを予定しています。

※詳細は決定次第、ホームページで発表します。



01		
02	03	04

- 01：梅阪鶯里「芍薬」1931年
- 02：高山正隆「楽器を持つ女」1924年
- 03：野島康三「髪梳く女」1914年  
京都国立近代美術館蔵
- 04：黒川翠山「題不詳」1906年



3F

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引  
3階展示室 Exhibition Gallery 3月8日(火)→5月8日(日)

## 芸術写真の精華

日本のビクトリアリズム 珠玉の名品展(仮称)

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
□ 助成：財団法人朝日新聞文化財団 □ 協賛：資生堂/凸版印刷/東京都写真美術館支援会員

写真の芸術性は、写真術が発明された当初から模索されました。19世紀中ごろ、絵画を模倣することによって芸術性を確立しようとする動きが顕著になり、世紀末には「ビクトリアリズム(絵画主義)」として世界を席卷します。日本でも明治時代中期、初期の湿式コロディオン法からゼラチン乾板への技術革新が行われることによって登場するアマチュア写真家たちが、西欧の動向を取り込みながら「芸術」としての写真のあり方を模索しはじめます。しかし、その模索は、日本の伝統的な絵画と取り込んだばかりの西洋絵画の両方を規範とする、日本独自のビクトリアリズムの写真表現をかたちづくってゆくことになりました。大正時代に入ると、ゴム印画やプロムオイル印画といったピグメント印画法を駆使した作品や、ソフト・フォーカスの表現をもつ作品が数多く生み出されました。手工芸的なプリントワークを高度に駆使したそれらは、一品制作の作品としてあるときはデリケートで精緻に、またあるときは豪放磊落でユニークな表現を展開し、日本の写真表現に大きな潮流をつくります。この動向は、写真だけにしかできない表現を追求する近代的写真表現が確立した時代の中にあっても、形を変えながら受け継がれてゆきます。本展では、明治時代後半から1930年代までに制作された、日本が世界に誇る珠玉の名品約120点と貴重な資料を一堂に集め、日本のビクトリアリズム表現の精華を堪能していただきます。そこには近代化の中で獲得した日本人の感情がいかに変容し、いかに変容しなかったかの軌跡が浮かび上がってくるでしょう。

### ✦ 主な出品作家

黒川翠山、野島康三、小野隆太郎、吉野誠、日高長太郎、益子愛太郎、堺時雄、福森白洋、安井仲治、大久保好六、福原信三、福原路草、梅阪鶯里、小川月舟、河野龍太郎、高山正隆、塩谷定好、廣井昇、小関庄太郎、田村築、山本牧彦、岩佐保雄、有馬光城 ほか

✦ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

✦ 展覧会関連イベントを予定しています。  
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

12月21日(火) → 2月13日(日)  
1月2日・3日は年始特別開館

# 3Dヴィジョンズ Quest for Vision

映像をめぐる冒険  
— 新たな表現を求めて —

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料  
※1月2日は無料、1月3日は団体料金

□ 主催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社 □ 支援：文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業  
□ 助成：公益財団法人 野村財団 □ 協賛：凸版印刷株式会社 □ 協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社  
□ 後援：サンケイスポーツ／タ刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／iza!／SANKEI EXPRESS



映像展「映像をめぐる冒険」シリーズでは、当館が収蔵する映像資料と現代作家の作品を組み合わせた展示を行い、映像の在り方を再考していきます。その3回目となる今年には、3D映画などで利用されている視覚原理「立体視」がテーマです。

本展では3D映画やアトラクションのようにスペクタクルを追求するのではなく、約170年前から続く立体視の歴史をひも解きながら、今後、立体視を使ってどのような表現が可能になるのかを多角的に検証します。19世紀中ごろから20世紀初頭までの立体写真や、立体視装置の変遷を紹介するとともに、新しいメディアテクノロジーや立体視を利用して新たな表現を生み出す現代作家たちの作品を展示します。



図版左：「故郷とは？ジュネーヴにて／Landing Home in Geneva」／藤嶋正樹／2005年  
図版右：「クリスタル・パレス」ネグレッティ&ザンブラ社 1851-1852年頃

❖ **アーティストトーク(作家による作品解説)**  
□ 五島一浩 2011年1月6日(木) 18:30～  
□ 津島岳央 2011年1月20日(木) 18:30～ ゲスト：原田大三郎(多摩美術大学教授)  
□ 藤嶋正樹 2011年1月28日(金) 18:30～  
□ 会場：地下1階展示室  
□ 参加方法：本展入場券(当日有効)をお持ちの方はどなたでもご参加できます。

❖ **スペシャル・ライブ「Visual & Sound Programming for 3D」**  
□ 日時：2010年12月23日(木・祝) 19:00～  
□ 出演：比嘉了(アーティスト・プログラマー)／鈴木英倫子(造形作家・音楽家)／谷口曉彦(アーティスト)  
□ 会場：2階エントランスロビー □ 参加方法：どなたでもご参加いただけます。

❖ **担当学芸員によるフロアレクチャー** 第2・4金曜日 16:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

B1F

3月5日(日) → 3月20日(日)

# APAアワード2011

第39回社団法人日本広告写真家協会公募展

□ 大人500円 □ 学生(高校生以上)300円

社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2011」の入選作品を一堂に展示いたします。昨年1年間に広告として世の中に流通した広告作品部門と、「華—はなやか—」というテーマに沿って写真家の新たな表現への挑戦を公募した写真作品部門で、新しい時代を彷彿させる写真をお楽しみください。

※お問い合わせ先 社団法人日本広告写真家協会 03-5449-0580

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

3月26日(日) → 5月15日(日)

# ベッティーナ・ランス展

□ 一般 900(720)円 □ 学生 800(640)円 □ 中高生・65歳以上 700(560)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：朝日新聞社 □ 共催：東京都写真美術館 □ 後援：フランス大使館(予定) □ 協力：エールフランス航空(予定)

モデルやジャーナリストとしての活動を経て、1976年に写真家として独立を果たしたベッティーナ・ランスの展覧会です。被写体となった多くの女性たちが放つ表現力や存在感は、ランスでなければ引き出せないと言われています。写真界にも男性的な視点がまだ多かった時代から、女性写真家のパイオニアとして活躍するランスの仕事は、ファッション雑誌でのモデル撮影から、エリゼ宮でのシラク元フランス大統領の撮影にまで及びますが、中でも女性のヌードを撮影した作品群は、写真を撮り始めた時からランスが撮りたかったものであり、被写体から寄せられる厚い信頼をもとに、高い評価を受けています。今回はヌードを含む女性のポートレートを主題にこれまでの代表作をご紹介します。

※お問い合わせ先 朝日新聞文化事業部 03-5540-7450

モニカ・ベルッチ  
© Bettina Rheims



## 写美のお正月 2011

新年は1月2日(日)より開館します! 1月2日(日)は展覧会が入場無料!

1月3日(月)は入場料が2割引になります

【開館時間】  
1月2日(日)・3日(月)は11:00~18:00  
※4階図書室は1/5より開館  
※1/5より通常開館

## 1月2日(日)・3日(月)はたのしいイベントがいっぱい!

### ❶ 新春フロアレクチャー

日本の新進作家展vol.9 [かがやきの瞬間]  
**ニュー・スナップショット**  
2011年1月2日(日)、3日(月) 16:00～  
【場所】2階展示室  
出品作家：池田宏彦氏、小畑雄嗣氏、結城臣雄氏  
(1/2はどなたでも参加可。1/3は当日の観覧チケットをお持ちの方は参加可)

### ❷ おめでどう写美クイズ

クイズに答えて素敵な写美グッズを当てよう!  
【抽選場所】2階総合カウンター  
※1/2はどなたでも参加可。1/3はチケット  
購入時にクイズ用紙をお渡しします



### ❸ しゃび雅楽

日本の伝統音楽である雅楽で新春をお祝いします。(無料)  
1月2日(日)、3日(月) 各日13:00～、15:00～  
【場所】2階エントランス前ロビー 【出演】橘雅友会



### ❹ 1階ミュージアムショップ「ナティップパイデン」

福袋 3,000円(税込)

写真集や雑誌など、約2万円相当の商品がはいった毎年大好評の福袋です。(限定25個)

### ❺ 1階カフェ「ジャンブルクレール」

ベルギー生ビール  
“サンフーヤンノエル”  
1杯 1,100円(税込)

冬季限定のベルギー直輸入生ビールは、まろやかでコクのある味わいです。(無くなり次第終了)

\*最新情報はホームページ <http://www.syabi.com> でご確認ください。

# 第3回恵比寿映像祭

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions

## デイドリーム ビリーバー!!

Daydream Believer!!



- 主催：東京都／東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室  
(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社
- 共催：恵比寿ガーデンプレイス株式会社
- 後援：アメリカ大使館／オーストラリア大使館／オーストリア大使館／  
オーストリア文化フォーラム／カナダ大使館／タイ王国大使館／  
フランス大使館／ベルギー王国大使館／株式会社J-WAVE
- 支援：平成22年度文化庁メディア芸術人材育成支援事業
- 協賛：東京都写真美術館支援会員
- 協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社／株式会社エディスグローヴ／  
びあ株式会社／エキサイトイズム／株式会社北山創造研究所／  
株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロポット

- 開館時間／10:00～20:00 (最終日のみ18:00まで)
- 会期中は無休

2.18 fri - 2.27 sun / 2011

東京都写真美術館  
www.yebizo.com

## デイドリーム ビリーバー!! — 映像の力

映像は、目覚めたまま見る夢[デイドリーム]。人が思いをめぐらすイマジネーション、メディアや機械が生み出すファンタジー、イメージに刻まれた歴史や記憶、映像が描き出す夢のありかたは一概ではありません。第3回を迎える恵比寿映像祭では、「デイドリームビリーバー!!」をテーマに、映像の力を問い直します。

### 恵比寿映像祭とは？

映像表現の可能性を、芸術の視点からあらためて捉えてみよう!と試みるユニークな映像の国際フェスティバルで、今年で第3回目を迎えます。映像は、作り手の立場によって、技法や表現、作法や文法も実に様々です。恵比寿映像祭は、その多様性を一堂に会することによって、映像の可能性を広く深く知る機会となることを志しています。会場は、東京都写真美術館全館と恵比寿ガーデンプレイスセンター広場。展示、上映、ライブ・イベント、パフォーマンス、トークセッションなどを複合的にしながら作品紹介していきます。優れた映像芸術やメディアの発展に触れることができる希少な機会となるでしょう。東京・恵比寿でのユニークな祭典を今年もお楽しみください!



### 東京文化発信プロジェクト

東京文化発信プロジェクトは、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成、多様な地域の文化拠点の形成を目的として、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトで、平成20年度に開始し、今年で3年目を迎えます。演劇、音楽、伝統、美術など様々な分野のイベントやフェスティバル、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、まちとアートをつなぐ人材の育成事業、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。文化基盤の厚さ、先進大都市としての活力や多様性を最大限に活かし、東京の魅力創造発信することで、世界における東京の文化面でのプレゼンスを確立するとともに、アジアをはじめ世界の様々な都市との国際文化交流拠点となることを目指しています。

## 展示

3階、2階、地下1階展示室(入場無料)

### 出品予定作家:

ダヴィッド・クレルボ(ベルギー)／ダニエル・クルックス(ニュージーランド・オーストラリア)／ハルン・ファロッキ(チェコ・ドイツ)／ツァオ・フェイ(中国)／松本力(日本)／水越香重子(日本)／森弘治(日本)／タニア・ルイス・グティエレス(チリ・コロンビア・フランス)／しりあがり寿(日本)／スーパーフレックス(デンマーク)／ハヴィア・テレズ(ベネズエラ・アメリカ)／アピチャップン・ウィーラセタクン(タイ)ほか予定

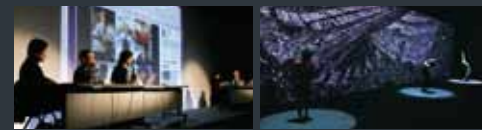


上：ハルン・ファロッキ《シリアス・ゲーム3:没入》 2009年  
下：ダヴィッド・クレルボ《幸福なモメントの諸断面》 2007年  
[参考図版]

## イベント

1階アトリエ、2階ラウンジ、特設会場ほか

- YEBIZOラウンジ(ゲストトーク)
- シンポジウム、レクチャー
- ライブ・イベント



左：平成21年度 第2回恵比寿映像祭 ラウンドテーブル「オルタナティブ・ヴィジョンズ 映像の生態学」より[参考図版]  
右：平成21年度 第2回恵比寿映像祭 ライブ・イベントrokapenis《fragment murder case / 不連続殺人事件》より[参考図版]  
撮影：田中秀幸／慰安ライブ

## 地域連携

地域連携  
パートナー



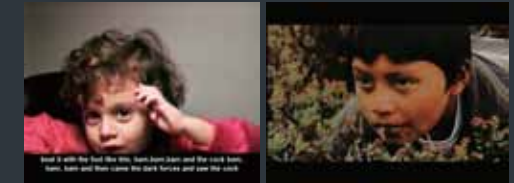
※内容及び出品作家については、変更する場合があります。予めご了承ください。

## 上映

1階ホール  
(定員190名・有料)

### 上映予定作家:

ジェームズ・ベニング(アメリカ)／シネミンガ[溝口尚美+カルロス・ゴメス](アメリカ・コロンビア)／ハルン・ファロッキ(チェコ・ドイツ)／ロドニー・グラハム(カナダ)／石橋義正(日本)／城之内元晴(日本)／おおえまさのり(日本)／エイドリアン・パチ(アルバニア・イタリア)／ヤン・シュヴァンクマイエル(チェコ)ほか予定  
リンク先組織：フィルム・ミュージーションズ(クアアチア)／ヴィタミンクリエイティブ・スペース(中国)／神戸映画資料館(日本)ほか予定



上：ジェームズ・ベニング《ルール》 2009年  
左下：エイドリアン・パチ《アルバニア・ストーリーズ》 1997年  
右下：シネミンガ《少年の夢》 2010年

## オフサイト展示

恵比寿ガーデンプレイス  
センター広場ほか



### 出品予定作家:

ダニエル・ワイルド(オーストラリア・フランス)＋アルバロ・カシネリ(ウルグアイ・イタリア)  
ダニエル・ワイルド＋アルバロ・カシネリ《見えないスカートと想像上のものたち(仮称)》[参考図版]

平成22年度文化庁メディア芸術人材育成支援事業



～オペラ映画フェスティバル2010～ 『ブラシド・ドミンゴ in Films』

ブラシド・ドミンゴが出演したオペラ映画の傑作7作品を一挙上映！

類い稀な表現力と豊かな美声。世界最高の歌手として絶大な人気を誇るブランド・ドミンゴが、その全盛期に出演したオペラ映画の傑作7作品を一挙上映。ヨーロッパを代表する映画監督とスタッフにより作品ゆかりの地でロケ撮影され、最高のオーケストラと指揮者、スター歌手たちが作り上げた総合芸術をじっくりと味わえます。



写真提供：T&Kテレフィルム

○作品について：楽学会事務局 03-3498-2508 ○スケジュール他：東京都写真美術館 03-3280-0099

○上映スケジュール：2010年12月4日(土)～12月26日(日) 月曜休映(祝日の場合は翌日休映) ○上映時間等は当館のHPまたは公式サイト(http://gakugakai.com/)をご確認ください。

○料金：【当日券】「楯姫」、「トスカ」、「蝶々夫人」、「カルメン」各2,800円(税込) 「わが心のセビリヤ」、「道化師」、「カヴァレリア・ルスティカーナ」各2,300円(税込) ※未就学児童入場できません。 ※各種割引はごさいません。 ※各上映回別、日時指定

Film Series Vol.53

阪神・淡路大震災15年特別企画 『その街のことも 劇場版』

1995年1月17日午前5時46分「街」は一瞬で破壊され、ぼくたちは生き残った。

こどもの頃に阪神・淡路大震災を体験し、いまは東京で暮らす勇治(森山未末)と美夏(佐藤江梨子)。「追悼のつどい」前夜、神戸で知り合ったふたりの間には大きな溝が広がっていたかのように見えた。しかし、「ある場所」に差し掛かったとき、美夏は勇治が長年抱え込んできた過去を知り、ふたりの想いが不器用にあふれ出す。



©2010NHK

○上映スケジュール：2011年1月15日(土)～2月13日(日) 月曜休映(祝日の場合は翌日休映) ○上映時間：11:00/13:00/15:00/17:00/19:00 ○料金：【当日券】一般1,800円/学生1,500円/中学生以下・シニア・障害者手帳をお持ちの方1,000円 ※詳細はホームページをご確認ください。

株式会社トランスフォーマー 03-5457-7767

カフェ『シャンブル クレール』

営業時間【1階】10:00-20:00(日曜日は18:00まで) ※2階は、9/1より無料の休憩コーナーになりました。 ◎お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

食感の良い高菜とチェダーチーズをはさんだホットサンド。珈琲との相性もぴったりです。



高菜とチェダーチーズ 680円(税込)

ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30) ◎お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

2011年開催予定の展覧会を各月にデザインした、美術館のオリジナルカレンダーができました。100部限定なのでお早めどうぞ！ 1,365円(税込)



友の会 Support

展覧会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。



年会費 個人会員 2,000円 家族会員(同伴者1名まで) 3,000円 シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円 ※ポイントを利用して特典と交換できます

※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。 ※会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。 ※詳細は当美術館までお問い合わせください。 Tel.03-3280-0099(開館時間中)

Table with columns: 友の会特典, 特典内容, 収蔵展・映像展, 企画展・誘致展, ミュージアムショップ, その他

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- List of corporate members including: 株式会社キクテ科学研究所, 株式会社TBSテレビ, 株式会社キーンコミュニケーションズ, etc.

(平成22年11月現在・五十音順)